

目次

健康医療学部

<看護学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 光星学院

(2) 大 学 名

八戸学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒031-8588

青森県八戸市美保野13-98

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ホウガン シンイチ) 法 官 新 一 (平成25年4月1日)		
学 長	(ホウガン シンイチ) 法 官 新 一 (平成30年4月1日)	(ミズノ マサオ) 水 野 眞 佐 夫 (平成31年4月1日)	法官学長退任に伴い、後任として水野学長が就任(元)
学 部 長	(イシダウ モリト) 遠 藤 守 人 (平成28年4月1日)		
学科長等	(ヒナタ ユミ) 蛭 田 由 美 (平成28年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康医療学部 看護学科	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	
学士（看護）						

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 人 (-) [-]		80 人 人 (-) [-]		80 人 人 (-) [-]		80 人 人 (-) [-]		80 人 人 (-) [-]		0.83 倍	一 倍	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	88 (-) [-]	(-) [-]	120 (-) [-]	(-) [-]	118 (-) [-]	(-) [-]	103 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	86 (-) [-]	(-) [-]	115 (-) [-]	(-) [-]	113 (-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	83 (-) [-]	(-) [-]	115 (-) [-]	(-) [-]	113 (-) [-]	(-) [-]	98 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	69 (-) [-]	(-) [-]	67 (-) [-]	(-) [-]	74 (-) [-]	(-) [-]	57 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B / A	—		0.86		0.83		0.92		0.71				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	69 [－] (－)	0 [－] (－)	67 [－] (－)	0 [－] (－)	74 [－] (－)	0 [－] (－)	57 [－] (－)	0 [－] (－)			
2 年次			[－] (－)	[－] (－)	68 [－] (－)	0 [－] (－)	65 [－] (－)	0 [－] (－)	71 [－] (－)	0 [－] (－)			
3 年次					[－] (－)	[－] (－)	64 [－] (－)	0 [－] (－)	62 [－] (－)	0 [－] (－)			
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	62 [－] (－)	0 [－] (－)			
計							－ [－] (－)		69 [－] (－)			135 [－] (－)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [—]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ (—)内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	0 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
平成28年度	69 人	1 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
平成29年度	135 人	5 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	3 人	0 人	就職(1人) 他の教育機関への入学・転学(2人)
			平成29年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人) 他の教育機関への入学・転学(1人)
平成30年度	204 人	8 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(3人)
			平成29年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転入(2名) その他(1名)
			平成30年度	2 人	0 人	家庭の事情(1名) 除籍(1名)
令和元年度	253 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		14 人		14 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)

・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{69} = \boxed{1.44} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{135} = \boxed{3.7} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{204} = \boxed{3.92} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{253} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康医療学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 負担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
リベラルアーツ	導入教育	宗教学	4秋	2									1
		キリスト教概論	1春	2									1
		地域文化論	1秋	2									1
		基礎演習	1春	1				1	5	3			
		プレゼンテーション	1秋	1				1	5	3			
		情報処理基礎	1春	1									2
		日本語リテラシー	1春	1									2
		日本語表現リテラシー	1秋		1								2
	外国語を学ぶ領域	英語Ⅰ	1春		1								2
		英語Ⅱ	1秋		1								2
		英語コミュニケーション	2春		1								1
		英語（TOEIC）Ⅰ	2春		1								1
		英語（TOEIC）Ⅱ	2秋		1								1
		ドイツ語	1春		1								1
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1								1
		人としてのあり方を学ぶ領域	哲学	1・2春秋		2							
	芸術論		1・2春秋		2								1
	デザイン論		1・2春秋		2								1
	心の科学		1・2春秋		2								1
	行動の科学		1・2春秋		2								1
	社会のあり方を学ぶ領域	歴史学	1・2春秋		2								1
		日本国憲法	1・2春秋		2								1
		政治学	1・2春秋		2								1
		社会学	1・2春秋		2								1
		国際関係論	1・2春秋		2								1
		海外事情	1・2春秋		2								1
	学自然と領域とが学ぶ科目	自然科学概論	1・2春秋		2								1
		数学	1・2春秋		2								1
		スポーツの科学	1・2春秋		2								4
小計(29科目)		—	10	36	0		1	5	3			兼21	
専門教育科目	入専門科目導	看護教育のための生物基礎	1春		1							1	
		看護教育のための科学基礎	1春		1		1						
	人間と健康	健康医療総論	1春	2			1					4	
		生命と倫理	1春	2			1					1	
		人間発達学	1春	2								1	

【令和元年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
リベラルアーツ	導入教育	宗教学	4秋	2									1
		キリスト教概論	1秋	2									1
		地域文化論	1秋	2									1
		基礎演習	1春	1			1	4	5	1			
		プレゼンテーション	1秋	1			1	4	5	1			
		情報処理基礎	1春	1									2
		日本語リテラシー	1春	1									2
		日本語表現リテラシー	1秋		1								2
	外国語を学ぶ領域	英語Ⅰ	1春		1								3
		英語Ⅱ	1秋		1								3
		英語コミュニケーション	2春		1								1
		英語（TOEIC）Ⅰ	2春		1								1
		英語（TOEIC）Ⅱ	2秋		1								1
		ドイツ語	1春		1								1
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1								1
	人としてのあり方を学ぶ領域	哲学	1・2春秋		2								1
		芸術論	1・2春秋		2								1
		デザイン論	1・2春秋		2								1
		心の科学	1・2春秋		2								1
		行動の科学	1・2春秋		2								1
	社会のあり方を学ぶ領域	歴史学	1・2春秋		2								1
		日本国憲法	1・2春秋		2								1
		政治学	1・2春秋		2								1
		社会学	1・2春秋		2								1
		国際関係論	1・2春秋		2								1
		海外事情	1・2春秋		2								1
	学自然と領域とが学ぶ科	自然科学概論	1・2春秋		2								1
		数学	1・2春秋		2								1
		スポーツの科学	1・2春秋		2								3
		小計（29科目）	－				1	4	5	1			兼21
専門教育科目	入専科目導	看護教育のための生物基礎	1春		1		1						
		看護教育のための科学基礎	1春		1								1
	人間と健康	健康医療総論	1春	2			1						6
		生命と倫理	1春	2			1						1
		人間発達学	1春	2									1

【認可時又は届出時】

科目区分			授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
						必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	専門基礎科目	人間と健康	解剖生理学Ⅰ	1春	2									2
			解剖生理学Ⅱ	1秋	2									2
			病態学Ⅰ	2春	2				1					1
			病態学Ⅱ	2春	2				1					1
			病態学Ⅲ	2春	2				1					1
			病態学Ⅳ	2秋	2				1					1
		環境と健康	薬理学	2春	2									1
			栄養学	1秋	1									1
			微生物学	1秋	1									1
			社会福祉論	1秋	1									1
			公衆衛生学	2春	1									1
			疫学	2秋	2									1
	専門科目	介護の基本	保健統計学Ⅰ	2春	1									1
			保健統計学Ⅱ	2秋			1							1
			保健医療福祉行政論Ⅰ	3春	1									1
			保健医療福祉行政論Ⅱ	3春	1									1
			看護学概論	1春	2				1					
			日常生活援助論	1春	2					1				1
		成人看護の展開・高齢者看護	回復促進援助論	1秋	2					1				1
			看護過程論	2春	2					1				
			ヘルスアセスメント	1秋	1					1				
			看護倫理	2春	1				1					
			基礎看護学実習Ⅰ	1春	1				1	2	3	4	5	3
			基礎看護学実習Ⅱ	2秋	2				1	2	3	4	5	3
	専門科目	成人看護の展開・高齢者看護	成人看護学概論	2春	2				1					
			成人看護援助論Ⅰ	2秋	2				1					
			成人看護援助論Ⅱ	2秋	2				1					
			成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3							3	1	3
			成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3							3	1	3
			高齢者看護学概論	2春	2				1					
		看護の展開・高齢者看護	高齢者看護援助論	2秋	2				1			1		
			高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1					3	1	3	2	
			高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3					2	1	1	1	
			看護学概論	1春	2									
			日常生活援助論	1春	2					1				1
			回復促進援助論	1秋	2					1				1

【令和元年度】

科目区分			授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
						必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	専門基礎科目	人間と健康	解剖生理学Ⅰ	1春	2									2
			解剖生理学Ⅱ	1秋	2									2
			病態学Ⅰ	2春	2				1					4
			病態学Ⅱ	2春	2				1					4
			病態学Ⅲ	2春	2				1					3
			病態学Ⅳ	2秋	2				1					6
		環境と健康	薬理学	2春	2									1
			栄養学	1秋	1									1
			微生物学	1秋	1									1
			社会福祉論	1秋	1									1
			公衆衛生学	2春	1									1
			疫学	2秋	2									1
	専門科目	介護の基本	保健統計学Ⅰ	2春	1									1
			保健統計学Ⅱ	2秋			1							1
			保健医療福祉行政論Ⅰ	3春	1									1
			保健医療福祉行政論Ⅱ	3春	1									1
			看護学概論	1春	2				2					
			日常生活援助論	1春	2				1			2		
	専門科目	成人看護の展開・高齢者看護	回復促進援助論	1秋	2							2		
			看護過程論	2春	2				1					
			ヘルスアセスメント	1秋	1				1					
			看護倫理	2春	1				1					
			基礎看護学実習Ⅰ	1春	1				1	3	2	4	3	2
			基礎看護学実習Ⅱ	2秋	2				2	4	3	3	3	2
	専門科目	成人看護の展開・高齢者看護	成人看護学概論	2春	2				1					
			成人看護援助論Ⅰ	2秋	2				1			2		
			成人看護援助論Ⅱ	2秋	2				1			2		
			成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3							2	2	1
			成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3							2	2	1
			高齢者看護学概論	2春	2				1					
	看護の展開・高齢者看護	看護の展開・高齢者看護	高齢者看護援助論	2秋	2				1			0	1	0
			高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1				1		0	2	0	0
			高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3						2	1	0	0
			看護学概論	1春	2									
			日常生活援助論	1春	2					1				1
			回復促進援助論	1秋	2					1				1

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	看護 の 展 開 ・ 小 児	小児看護学概論	2秋	2			1					
		小児看護援助論	3春	2			1		1			1
		小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1		2		3	
		小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1			1		2		1	
		母性看護学概論	2秋	2			1					
		母性看護援助論	3春	2			1		1			
		母性看護学実習	3秋～4春	2			1		1	1		1
		精神看護学概論	2秋	2			1					
		精神看護援助論	3春	2			1		2	1		
		精神看護学実習	3秋～4春	2					2	1		1
		在宅看護学概論	2秋	2			1					
		在宅看護援助論	3春	2			1	1				
		在宅看護学実習	3秋～4春	2			1	1	1	1	1	
	看護 の 展 開 ・ 在 宅	統合看護論	3春	2			1					
		チーム医療論	3春	1			1	1				
		医療安全論	2春	1			1					
		看護管理論	3春	1			1					
		看護教育論	4秋		1		1					
		家族看護論	2春	1				1				
		救急看護	4秋		1							1
		リハビリテーション看護	4秋		1					1		
		緩和ケア論	4秋		1		1					
		災害看護活動論	3秋	1								1
		国際看護活動論	3春	1			1					
		僻地看護活動論	4秋	1					1			
		統合看護実習	3秋～4春	2			1	1	5	4	5	3
	公衆 衛 生 看 護	公衆衛生看護学概論	3春		2		1					
		公衆衛生看護支援論	3春		2			1				
		公衆衛生看護活動展開論	3春		2				1			
		公衆衛生看護管理論	4秋		1		1					
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4秋		2		1		1		1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3		1		1		1	
	看護 の 研 究	看護学研究法	3春	2				1				
		看護卒業研究	4通	2			9	3	3			
小計(72科目)			—	101	19	0	9	3	6	6	5	兼10
合計(101科目)			—	111	55	0	7	5	6	6	5	兼39
卒業要件及び履修方法												
・リベラルアーツ(29科目):必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修												
・専門導入科目(2科目):選択必修科目1単位												
・専門基礎科目(19科目):必修科目29単位												
・専門科目(51科目):必修科目72単位												
合計:必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上												
・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護支援論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。												

【令和元年度】

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	看護の 発展・ 小児	小児看護学概論	2秋	2			1	1					
		小児看護援助論	3春	2			1	1	0				1
		小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1	1	0			1	
		小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1			1	1	0			1	
		母性看護学概論	2秋	2			1	1					1
		母性看護援助論	3春	2			1	1	0				
		母性看護学実習	3秋～4春	2			0	1	0	1			0
		精神看護学概論	2秋	2			1	1					
		精神看護援助論	3春	2			1	1	1	0			
		精神看護学実習	3秋～4春	2				1	1	0			0
		在宅看護学概論	2秋	2			1						
		在宅看護援助論	3春	2			1	1					
		在宅看護学実習	3秋～4春	2			0	1	0	0	1		
	看護の 統合・ 看護の 発展	統合看護論	3春	2			1						
		チーム医療論	3春	1			1	1					1
		医療安全論	2春	1			1	1					
		看護管理論	3春	1			1		1				
		看護教育論	4秋		1		1						
		家族看護論	2春	1				1					
		救急看護	4秋		1								1
		リハビリテーション看護	4秋		1			2	1	0			
		緩和ケア論	4秋		1		1		1				
		災害看護活動論	3春	1									2
		国際看護活動論	4秋	1			1			1			
		僻地看護活動論	4秋	1					1				
		統合看護実習	3秋～4春	2			1	1	6	4	5		2
	公衆 衛生 看護	公衆衛生看護学概論	3春		2		1	1					
		公衆衛生看護支援論	3春		2			1					
		公衆衛生看護活動展開論	3春		2			1	1				
		公衆衛生看護管理論	3春		1		1						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4秋		2		1	1	1			1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3		1	1	1			1	
	看護 究の 研	看護学研究法	3春	2			1	0					
		看護卒業研究	4通	2			9	5	5	0			
	小計(72科目)	—				10	5	5	5	4		兼35	
合計(101科目)			—				10	5	5	5	4	兼54	
卒業要件及び履修方法													
・リベラルアーツ(29科目):必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修													
・専門導入科目(2科目):選択必修科目1単位													
・専門基礎科目(19科目):必修科目29単位													
・専門科目(51科目):必修科目72単位													
合計:必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上													
・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護支援論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。													

【平成28年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
リベラルアーツ	導 入 教 育	宗教学	4秋	2							1
		キリスト教概論	1春	2							1
		地域文化論	1秋	2							1
		基礎演習	1春	1			1	4	3		
		プレゼンテーション	1秋	1			1	4	3		
		情報処理基礎	1春	1							2
		日本語リテラシー	1春	1							2
		日本語表現リテラシー	1秋		1						2
	外 国 語 を 学 ぶ 領 域	英語Ⅰ	1春		1						1
		英語Ⅱ	1秋		1						2
		英語コミュニケーション	2春		1						1
		英語 (TOEIC)Ⅰ	2春		1						1
		英語 (TOEIC)Ⅱ	2秋		1						1
		ドイツ語	1春		1						1
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1						1
	リ 人 方 と し て の 学 ぶ の 領 域	哲学	1・2春秋		2						1
		芸術論	1・2春秋		2						1
		デザイン論	1・2春秋		2						1
		心の科学	1・2春秋		2						1
	社 会 の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	行動の科学	1・2春秋		2						1
		歴史学	1・2春秋		2						1
		日本国憲法	1・2春秋		2						1
		政治学	1・2春秋		2						1
		社会学	1・2春秋		2						1
	学 自 領 を 然 と 学 ぶ 領 域 と ぶ 科	国際関係論	1・2春秋		2						1
		海外事情	1・2春秋		2						1
		自然科学概論	1・2春秋		2						1
		数学	1・2春秋		2						1
	小計(29科目)	スポーツの科学	1・2春秋		2						3
			—								
専門教育科目	科 導 専 目 入 門	看護教育のための生物基礎	1春				1				
		看護教育のための科学基礎	1春		1						1
	人 間 と 健 康	健康医療総論	1春	2			1				4
		生命と倫理	1春	2			1				1
		人間発達学	1春	2							1

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
リベラルアーツ	導 入 教 育	宗教学	4秋	2							1
		キリスト教概論	1春	2							1
		地域文化論	1秋	2							1
		基礎演習	1春	1			2	5	3		
		プレゼンテーション	1秋	1			2	5	3		
		情報処理基礎	1春	1							2
		日本語リテラシー	1春	1							2
		日本語表現リテラシー	1秋		1						2
	外 国 語 を 学 ぶ 領 域	英語Ⅰ	1春		1						1
		英語Ⅱ	1秋		1						1
		英語コミュニケーション	2春		1						1
		英語 (TOEIC)Ⅰ	2春		1						1
		英語 (TOEIC)Ⅱ	2秋		1						1
		ドイツ語	1春		1						1
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1						1
	リ 人 方 と し て の 学 ぶ の 領 域	哲学	1・2春秋		2						1
		芸術論	1・2春秋		2						1
		デザイン論	1・2春秋		2						1
		心の科学	1・2春秋		2						1
	社 会 の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	行動の科学	1・2春秋		2						1
		歴史学	1・2春秋		2						1
		日本国憲法	1・2春秋		2						1
		政治学	1・2春秋		2						1
		社会学	1・2春秋		2						1
	学 自 領 を 然 と 学 ぶ 領 域 と ぶ 科	国際関係論	1・2春秋		2						1
		海外事情	1・2春秋		2						1
		自然科学概論	1・2春秋		2						1
		数学	1・2春秋		2						1
	小計(29科目)	スポーツの科学	1・2春秋		2						3
			—								
専門教育科目	科 導 専 目 入 門	看護教育のための生物基礎	1春		1		1				
		看護教育のための科学基礎	1春		1						1
	人 間 と 健 康	健康医療総論	1春	2			1				4
		生命と倫理	1春	2			1				1
		人間発達学	1春	2							1

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	専門基礎科目	人間と健康	解剖生理学Ⅰ	1春	2								2
			解剖生理学Ⅱ	1秋	2								2
			病理学Ⅰ	2春	2			1					1
			病理学Ⅱ	2春	2			1					1
			病理学Ⅲ	2春	2			1					1
			病理学Ⅳ	2秋	2			1					1
			薬理学	2春	2								1
		環境と健康	栄養学	1秋	1								1
			微生物学	1秋	1								1
			社会福祉論	1秋	1								1
	専門科目	介護の基本	公衆衛生学	2春	1								1
			疫学	2秋	2								1
			保健統計学Ⅰ	2春	1	1							1
			保健統計学Ⅱ	2秋	2								1
			保健医療福祉行政論Ⅰ	3春	1								1
			保健医療福祉行政論Ⅱ	3春	1								1
			看護学概論	1春	2			1					1
		開成・人成看護の発展	日常生活援助論	1春	2			1					1
			回復促進援助論	1秋	2			1					1
			看護過程論	2春	2			1					1
			ヘルスアセスメント	1秋	1			1					1
			看護倫理	2春	1			1					1
			基礎看護学実習Ⅰ	1春	1			1	2	3	4	5	3
			基礎看護学実習Ⅱ	2秋	2			1	2	3	4	5	3
	高齢者看護	看護の展開・高齢者看護	成人看護学概論	2春	2			1					
			成人看護援助論Ⅰ	2秋	2			1					
			成人看護援助論Ⅱ	2秋	2			1					
			成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3						3	1	3
			成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3						3	1	3
			高齢者看護学概論	2春	2			1					
			高齢者看護援助論	2秋	2			1	0		1		
	看護の展開・高齢者看護	看護の展開・高齢者看護	高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1	1	3	2		
			高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3			0	1	1	1		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	専門基礎科目	人間と健康	解剖生理学Ⅰ	1春	2								2
			解剖生理学Ⅱ	1秋	2								2
			病理学Ⅰ	2春	2			1					4
			病理学Ⅱ	2春	2			1					2
			病理学Ⅲ	2春	2			1					3
			病理学Ⅳ	2秋	2			1					7
			薬理学	2春	2								1
		環境と健康	栄養学	1秋	1								1
			微生物学	1秋	1								1
			社会福祉論	1秋	1								1
	専門科目	介護の基本	公衆衛生学	2春	1								1
			疫学	2秋	2								1
			保健統計学Ⅰ	2春	1	1							1
			保健統計学Ⅱ	2秋	2								1
			保健医療福祉行政論Ⅰ	3春	1								1
			保健医療福祉行政論Ⅱ	3春	1								1
			看護学概論	1春	2			1					0
	開成・人成看護の発展	看護の展開・高齢者看護	日常生活援助論	1春	2			1					0
			回復促進援助論	1秋	2			1					0
			看護過程論	2春	2			1					0
			ヘルスアセスメント	1秋	1			1					0
			看護倫理	2春	1			1					0
			基礎看護学実習Ⅰ	1春	1			1	3	4	4	5	1
			基礎看護学実習Ⅱ	2秋	2			1	3	4	4	5	3
	看護の展開・高齢者看護	看護の展開・高齢者看護	成人看護学概論	2春	2			1					
			成人看護援助論Ⅰ	2秋	2			1					
			成人看護援助論Ⅱ	2秋	2			1					
			成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3						3	1	3
			成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3						3	1	3
			高齢者看護学概論	2春	2			1					
			高齢者看護援助論	2秋	2			1	0		1		
	看護の展開・高齢者看護	看護の展開・高齢者看護	高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1	2	2	3	2	
			高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3			1	1	1	1		

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	看護小児看護学概論	2秋	2			1					1	
		看護小児看護学援助論	3春	2			1		1				
		看護小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1		2		3		
		看護小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1			1		2		1		
		看護母性看護学概論	2秋	2			1						
		看護母性看護学援助論	3春	2			1		1				
		看護母性看護学実習	3秋～4春	2			1		1	1		1	
		看護精神看護学概論	2秋	2			1						
		看護精神看護学援助論	3春	2			1		1	1			
		看護精神看護学実習	3秋～4春	2					1	1		1	
		看護在宅看護学概論	2秋	2			1						
		看護在宅看護学援助論	3春	2			1	1					
		看護在宅看護学実習	3秋～4春	2			1	1	1	1	1		
		看護の統合・看護の発展	統合看護論	3春	2			1					
			チーム医療論	3春	1			1	1				
			医療安全論	2春	1			1					
			看護管理論	3春	1			1					
			看護教育論	4秋	1	1		1					
			家族看護論	2春	1				1				
			救急看護	4秋	1	1							1
			リハビリテーション看護	4秋	1	1				1			
			緩和ケア論	4秋	1	1		1					
			災害看護活動論	3秋	1								1
			国際看護活動論	3春	1			1					
			僻地看護活動論	4秋	1					1			
			統合看護実習	3秋～4春	2			1	1	4	4	5	3
			公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	3春		2		1				
		公衆衛生看護学支援論		3春		2			1				
		公衆衛生看護学活動展開論		3春		2				1			
		公衆衛生看護学管理論		4秋		1		1					
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		4秋		2		1		1		1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		4秋		3		1		1		1	
		看護研究	看護学研究法	3春	2				1				
			看護卒業研究	4通	2			9	2	2			
小計(72科目)			—										
合計(101科目)			—										
卒業要件及び履修方法													
・リベラルアーツ(29科目)：必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修													
・専門導入科目(2科目)：選択必修科目1単位													
・専門基礎科目(19科目)：必修科目29単位													
・専門科目(51科目)：必修科目72単位													
合計：必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上													
・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学支援論」「公衆衛生看護学活動展開論」「公衆衛生看護学管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。													

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	看護の発展・小児看護学概論	2秋	2			1					1
		小児看護援助論	3春	2			1		1			
		小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1		2		3	
		小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1			1		2		1	
		看護の発展・母性看護学概論	2秋	2			1					1
		母性看護援助論	3春	2			1		1			
		母性看護学実習	3秋～4春	2			1		1	1		1
		看護の発展・精神看護学概論	2秋	2			1					
		精神看護援助論	3春	2			1		2	1		
		精神看護学実習	3秋～4春	2					2	1		1
		看護の発展・在宅看護学概論	2秋	2			1					
		在宅看護援助論	3春	2			1	1				
		在宅看護学実習	3秋～4春	2				1	1	1	1	
		看護の発展・統合看護論	3春	2			1					
		チーム医療論	3春	1			1	1				
		医療安全論	2春	1			1					
		看護管理論	3春	1			1					
		看護教育論	4秋	1			1					
		家族看護論	2春	1				1				
		救急看護	4秋	1		1						1
		リハビリテーション看護	4秋	1		1				1		
		緩和ケア論	4秋	1		1		1				
		災害看護活動論	3秋	1								1
		国際看護活動論	3春	1			1					
		僻地看護活動論	4秋	1					1			
		統合看護実習	3秋～4春	2			1	1	5	4	5	3
		公衆衛生看護学概論	3春		2		1	1				
		公衆衛生看護学支援論	3春		2			2				
		公衆衛生看護学活動展開論	3春		2			1	1			
		公衆衛生看護学管理論	4秋		1		1					
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4秋		2		1	1	1		1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3		1	1	1		1	
		看護学研究法	3春	2				1				
		看護卒業研究	4通	2			9	3	3	1		
小計(72科目)			—									
合計(101科目)			—									
卒業要件及び履修方法												
・リベラルアーツ(29科目):必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修												
・専門導入科目(2科目):選択必修科目1単位												
・専門基礎科目(19科目):必修科目29単位												
・専門科目(51科目):必修科目72単位												
合計:必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上												
・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学支援論」「公衆衛生看護学活動展開論」「公衆衛生看護学管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。												

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
リ ベ ラ ル ア ー ツ	導 入 教 育	宗教学	4秋	2							1
		キリスト教概論	1春	2							1
		地域文化論	1秋	2							1
		基礎演習	1春	1			2	5	4		
		プレゼンテーション	1秋	1			2	5	4		
		情報処理基礎	1春	1							2
		日本語リテラシー	1春	1							2
		日本語表現リテラシー	1秋		1						2
	外 国 語 を 学 ぶ 領 域	英語Ⅰ	1春		1						1
		英語Ⅱ	1秋		1						1
		英語コミュニケーション	2春		1						1
		英語 (TOEIC) Ⅰ	2春		1						1
		英語 (TOEIC) Ⅱ	2秋		1						1
		ドイツ語	1春		1						1
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1						1
	人 と し て の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	哲学	1・2春秋		2						1
		芸術論	1・2春秋		2						1
		デザイン論	1・2春秋		2						1
		心の科学	1・2春秋		2						1
		行動の科学	1・2春秋		2						1
	社 会 の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	歴史学	1・2春秋		2						1
		日本国憲法	1・2春秋		2						1
		政治学	1・2春秋		2						1
		社会学	1・2春秋		2						1
		国際関係論	1・2春秋		2						1
		海外事情	1・2春秋		2						1
	学 自 然 領 域 を 然 域 学 と し て 学 ぶ 科 学	自然科学概論	1・2春秋		2						1
		数学	1・2春秋		2						1
		スポーツの科学	1・2春秋		2						3
		小計(29科目)	—								
専 門 教 育 科 目	科 導 専 目 入 門	看護教育のための生物基礎	1春		1		1				
		看護教育のための科学基礎	1春		1						1
	人 間 と 健 康	健康医療総論	1春	2			1				4
		生命と倫理	1春	2			1				1
		人間発達学	1春	2							1

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	人 間 と 健 康	解剖生理学Ⅰ	1春	2							2
			解剖生理学Ⅱ	1秋	2							2
			病態学Ⅰ	2春	2		1					4
			病態学Ⅱ	2春	2		1					3
			病態学Ⅲ	2春	2		1					3
			病態学Ⅳ	2秋	2		1					7
			薬理学	2春	2							1
			栄養学	1秋	1							1
			微生物学	1秋	1							1
		環 境 と 健 康	社会福祉論	1秋	1							1
			公衆衛生学	2春	1							1
			疫学	2秋	2							1
			保健統計学Ⅰ	2春	1							1
			保健統計学Ⅱ	2秋		1						1
			保健医療福祉行政論Ⅰ	3春	1							1
			保健医療福祉行政論Ⅱ	3春	1							1
	専 門 科 目	介 護 の 基 本	看護学概論	1春	2		1					
			日常生活援助論	1春	2			1	1			0
			回復促進援助論	1秋	2			1	1			0
			看護過程論	2春	2			1				
			ヘルスアセスメント	1秋	1			1				
			看護倫理	2春	1		1					
			基礎看護学実習Ⅰ	1春	1		1	3	5	5	5	2
			基礎看護学実習Ⅱ	2秋	2		1	3	5	5	5	2
		成 人 看 護 の 展 開	成人看護学概論	2春	2		1					
			成人看護援助論Ⅰ	2秋	2		1		1			
			成人看護援助論Ⅱ	2秋	2		1		1			
			成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3					3	1	3
			成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3					3	1	3
		看 護 の 展 開 ・ 高 齢 者 看 護	高齢者看護学概論	2春	2		1					
			高齢者看護援助論	2秋	2		1	0	1	1		
			高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			2	2	3	2	
			高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3			1	2	1	1	

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	看護の 発展 ・ 小児	小児看護学概論	2秋	2			1					
		小児看護援助論	3春	2			1		1			1
		小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1			1		2		3	
		小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1			1		2		1	
	看護の 発展 ・ 母性	母性看護学概論	2秋	2			1					1
		母性看護援助論	3春	2			1		1			
		母性看護学実習	3秋～4春	2			1		1	1		0
	看護の 発展 ・ 精神	精神看護学概論	2秋	2			1					
		精神看護援助論	3春	2			1		1	2		
		精神看護学実習	3秋～4春	2					1	2		0
	看護の 発展 ・ 在宅	在宅看護学概論	2秋	2			1					
		在宅看護援助論	3春	2			1	1				
		在宅看護学実習	3秋～4春	2			1	1	1	1	1	
	看護の 統合 ・ 看護 の 発展	統合看護論	3春	2			1					
		チーム医療論	3春	1			1	1				
		医療安全論	2春	1			1					
		看護管理論	3春	1			1					
		看護教育論	4秋		1		1					
		家族看護論	2春	1				1				
		救急看護	4秋		1							1
		リハビリテーション看護	4秋		1					1		
		緩和ケア論	4秋		1		1					
		災害看護活動論	3春	1								2
		国際看護活動論	4秋	1			1					
		僻地看護活動論	4秋	1					1			
		統合看護実習	3秋～4春	2				1	1	6	4	5
	公衆 衛生 看護	公衆衛生看護学概論	3春		2		1	1				
		公衆衛生看護支援論	3春		2			2				
		公衆衛生看護活動展開論	3春		2			1	1			
		公衆衛生看護管理論	3春		1		1					
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4秋		2		1	1	1		1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3		1	1	1		1	
	看護の 研 究	看護学研究法	3春	2				1				
		看護卒業研究	4通	2			9	3	3	1		
	小計(72科目)	—										
合計(101科目)			—									
卒業要件及び履修方法												
・リベラルアーツ(29科目):必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修												
・専門導入科目(2科目):選択必修科目1単位												
・専門基礎科目(19科目):必修科目29単位												
・専門科目(51科目):必修科目72単位												
合計:必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上												
・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護支援論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・基礎演習：講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・プレゼンテーション：講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・英語Ⅰ：2クラス実施予定であったが、履修者が少ないため1クラスで実施。
- ・スポーツの科学：兼任担当者数を4名から3名へ変更。
- ・看護教育のための生物基礎：兼任から専任教員へ変更。担当：高橋正知（教授）、平成28年1月教員審査済 判定可。
- ・看護教育のための科学基礎：専任教員から兼任へ変更。
- ・高齢者看護援助論：准教授1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・高齢者看護学実習Ⅰ：申請書類准教授3名で申請、1名誤植。准教授1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・高齢者看護学実習Ⅱ：申請書類准教授2名で申請、1名誤植。准教授1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・精神看護援助論：講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・精神看護学実習：講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・統合看護実習：講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。
- ・看護卒業研究：准教授1名、講師1名就任辞退のため、H28年度公募中。

【平成29年度】

- ・地域文化論：教育効果を考慮し、兼任担当者から兼任担当者へ変更。
- ・基礎演習：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・プレゼンテーション：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・英語Ⅱ：2クラス実施予定であったが、履修者が少ないため1クラスで実施。
- ・日常生活援助論：専任教員ならびに兼任担当者2名で実施予定だったが、H28年度入学者69名のため、専任教員1名で実施。
- ・回復促進援助論：専任教員ならびに兼任担当者2名で実施予定だったが、H28年度入学者69名のため、専任教員1名で実施。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
H28年度入学者が69名のため、兼任担当者2名を外して実施。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・高齢者看護学実習Ⅰ：准教授1名担当科目追加。平成29年10月提出予定。
臨地実習の教員体制充実のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・高齢者看護学実習Ⅱ：准教授1名担当科目追加。平成29年10月提出予定。
- ・精神看護援助論：講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・精神看護学実習：講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・国際看護活動論：教授1名担当科目追加。平成29年10月提出予定。
- ・統合看護実習：講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。
- ・公衆衛生看護学概論：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
- ・公衆衛生看護学支援論：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
- ・公衆衛生看護学活動展開論：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
- ・公衆衛生看護学実習Ⅰ：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
- ・公衆衛生看護学実習Ⅱ：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
- ・看護卒業研究：教員の新規採用。担当：西村美八（准教授）、平成29年1月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：長南幸恵（講師）、平成29年4月教員審査申請中。

【平成30年度】

- ・基礎演習：准教授1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の追加。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・プレゼンテーション：准教授1名就任辞退のため、教員の新規追加。担当：大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
講師1名就任辞退のため、教員の追加。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・日常生活援助論：当初の判定結果が「不可」（兼任補充可）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。
担当：下川原久子（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・回復促進援助論：当初の判定結果が「不可」（兼任補充可）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。
担当：下川原久子（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：当初の判定結果が「不可」（兼任補充可）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。
担当：下川原久子（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：当初の判定結果が「不可」（兼任補充可）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。
担当：下川原久子（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・精神看護援助論：「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・精神看護学実習：「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・統合看護実習：当初の判定結果が「不可」（兼任補充可）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。担当：下川原久子（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・看護教育論：前回の教員審査判定が「不可」（専任補充）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。担当：蛭田由美（教授）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・国際看護活動論：前回の教員審査判定が「不可」（専任補充）の判定を受けたため、業績を追加し再審査。
担当：蛭田由美（教授）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・高齢者看護援助論：准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・高齢者看護学実習Ⅰ：高齢者看護学実習の教員組織充実を図るため、准教授1名の科目担当を追加。担当：壬生寿子（准教授）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・高齢者看護学実習Ⅱ：高齢者看護学実習の教員組織充実を図るため、准教授1名の科目担当を追加。担当：壬生寿子（准教授）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・看護卒業研究：「保留」（「助教」なら可）の判定を受けたため、助教に職位を変更し再審査。担当：長南幸恵（助教）、平成29年11月教員審査済 判定可。
准教授1名就任辞退のため教員の新規追加。担当大崎瑞恵（講師）、平成29年11月教員審査済 判定可。
- ・災害看護活動論：教育効果を考慮し、開設学期を3年次秋から3年次春へ変更。
- ・国際看護活動論：教育効果を考慮し、開設学期を3年次春から4年次秋へ変更。
- ・公衆衛生看護管理論：教育効果を考慮し、開設学期を4年次秋から3年次春へ変更。

【令和元年度】

- ・小沢准教授が、教授へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「准教授」から「教授」へ変更。
- ・山野内講師が、准教授へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「講師」から「准教授」へ変更。
- ・木村講師が、准教授へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「講師」から「准教授」へ変更。
- ・坂本講師が、准教授へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「講師」から「准教授」へ変更。
- ・三浦助教が、講師へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「助教」から「講師」へ変更。
- ・切明助教が、講師へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「助教」から「講師」へ変更。
- ・市川助教が、講師へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「助教」から「講師」へ変更。
- ・坂本助教が、講師へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「助教」から「講師」へ変更。
- ・久保助手が、助教へ職位の変更ならびに担当科目の追加が認められたため、該当科目を「助教」へ追加。
- ・教育効果を考慮し、「キリスト教概論」を1年次春学期から1年次秋学期へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「基礎演習」「プレゼンテーション」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授4」「講師5」「助教1」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「健康医療論」の兼任教員配置を「6」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「病態学Ⅰ」の兼任教員配置を「4」へ変更し、「病態学Ⅳ」の兼任教員配置を「6」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「高齢者看護学実習Ⅰ」の兼任教員配置を「1」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「高齢者看護学実習Ⅱ」の兼任教員配置を「2」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置に「助手1」を追加。
- ・教育効果を考慮し、「チーム医療論」の兼任教員配置に「1」へ変更。
- ・教育効果を考慮し、「統合看護実習」の兼任教員配置に「2」へ変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年度の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
66 科目	35 科目	0 科目	101 科目	66 科目 [0]	35 科目 [0]	0 科目 [0]	101 科目 [0]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているに関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{101} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	14,146 m ²	m ²	m ²	14,146 m ²					
	運動場用地	15,000 m ²	m ²	m ²	15,000 m ²					
	小 計	29,146 m ²	m ²	m ²	29,146 m ²					
	そ の 他	35,484 m ²	m ²	m ²	35,484 m ²					
	合 計	64,630 m ²	m ²	m ²	64,630 m ²					
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	高校との共用 (7号館3・4階) 710.94 m ² 八戸学院光星高等学校 収容定員：1,170名 青森県の基準面積： 6,120m ² 短大専用：八戸学院大学 短期大学部校舎増築 (29) 高校専用：八戸学院室内 練習場建設(29)				
		大学専用	大学他学科・短大との共用	短大専用						
		2,954.98 m ²	11,719.78 m ²	6,621.21 m ²	40,792.38 m ²					
		高校と共用	高校専用	38,849.14 m ²						
		710.94 m ²	18,785.47 m ²							
2,954.98 m ² (m ²)	12,430.72 m ² (m ²)	25,406.68 m ² (23,463.44 m ²)	40,792.38 m ² (38,849.14 m ²)							
(3)教 室 等		講 義 室 15 室	演 習 室 25 室	実験実習室 7 室	情報処理学習施設 1 室 (補助職員 4人)	語学学習施設 0 室 (補助職員 0人)	大学全体 (八戸学院大学短期大学部と共用)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		申請書類教員研究室16室 で申請。誤植のため18室 (28)			
		健康医療学部 看護学科			18 16 室					
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点			
	健康医療学部 看護学科	6,411〔237〕 6,762〔158〕 -6,777 -5,638 -5,212 (-5,211〔157〕)	46〔13〕	11〔11〕	13 418	4,273	23			
							図書について、H30年度から除籍があり冊数が減少。(元)視聴覚資料については、短大看護学科廃止に伴い、大学へ移行。(元)			
	計	6,411〔237〕 (5,212〔157〕)	46〔13〕 (46〔13〕)	11〔11〕 (11〔11〕)	13 (13)	4,273 (4,273)	23 (23)			
(6)図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 (八戸学院大学短期大学部と共用) 学生数増加に伴い、閲覧 座席数を追加(29)			
		1,646 m ²	188 席 464 席		約195,000 冊					
(7)体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		2,578 m ²	硬式野球場、軟式野球場、サッカー場、ラグビー場 他							
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費について、 新採用教員からの変更 依頼があり、図書の充 実を図るため変更した (28)	
		教員1人当たり研究費等	300 千円	300 千円	図書購入費	810 802 千円	500 千円	500 千円		
		共 同 研 究 費 等	2,000 千円	2,000 千円	設備購入費	12,032 千円	1,000 千円	1,000 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,590 千円	1,320 千円	1,320 千円	1,320 千円	－ 千円	－ 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、事業収入等							

-
- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	八 戸 学 院 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	平成30年より募集停止
ビジネス学部	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
ビジネス学科	4	—	—	—	学士 (ビジネス 学)	—	—	昭和56年度	青森県八戸市美保野13-98	
地域経営学部										
地域経営学科	4	80	—	320	学士 (地域経営 学)	0.85	平成30	平成30年度	青森県八戸市美保野13-98	
健康医療学部										
人間健康学科	4	80	—	320	学士 (人間健康 学)	1.11	—	平成17年度	青森県八戸市美保野13-98	
大学全体	4	160	—	640	—	0.98	—	—	—	
大学 の 名 称	八 戸 学 院 大 学 短 期 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
幼児保育学科	2	100	—	200	短期大学士 (幼児保育 学)	0.97	—	昭和46年度	青森県八戸市美保野13-384	
介護福祉学科	2	40	—	80	短期大学士 (介護福祉 学)	0.22	—	令和元年度	青森県八戸市美保野13-384	
大学全体	2	140	—	280	—	0.59	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一① 担当教員表

20

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 守人 (57) <平成28年4月> 博士(医学)
		健康医療総論 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 病理学Ⅲ 病理学Ⅳ 保健統計学Ⅱ
兼任	教授	小澤 昭夫 (65) <平成28年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション
兼任	教授	小林 喜輝 (69) <平成28年4月> 学士(教育学)
		日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	教授	瀬澤 透 (49) <平成28年4月> 博士(医学)
		人間発達学
兼任	教授	木鐘 耕一郎 (46) <平成28年4月>
		宗教学 キリスト教概論 地域文化論 哲学 生命と倫理
兼任	教授	熊谷 晶子 (68) <平成28年4月> 博士(農学)
		自然科学概論 看護教育のための生物基礎 栄養学
兼任	教授	三本木 遼 (47) <平成28年4月> 博士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	准教授	井元 紀子 (43) <平成28年4月> 博士(農学)
		微生物学
兼任	准教授	渡邊 陵由 (37) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学 健康医療総論 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	准教授	金地 美知彦 (42) <平成28年4月> 修士(文学)
		心の科学 健康医療総論
兼任	講師	小柳 達也 (35) <平成28年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論 健康医療総論
兼任	助教	工藤 祐太郎 (29) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	助教	嶋崎 綾乃 (28) <平成28年4月> 修士(体育学)
		スポーツの科学
兼任	教授	村本 卓 (55) <平成28年4月> 学士(工学)
		情報処理基礎
兼任	教授	B. グロスマン (50) <平成28年4月> 修士(言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション
兼任	教授	樺 克裕 (50) <平成28年4月> 博士(経済学)
		政治学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 守人 (57) <平成28年4月> 博士(医学)
		健康医療総論 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 病理学Ⅲ 病理学Ⅳ 保健統計学Ⅱ
兼任	教授	小澤 昭夫 (65) <平成28年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション
兼任	教授	小林 喜輝 (69) <平成28年4月> 学士(教育学)
		日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	教授	瀬澤 透 (49) <平成28年4月> 博士(医学)
		人間発達学
兼任	教授	木鐘 耕一郎 (46) <平成28年4月>
		宗教学 キリスト教概論 哲学 生命と倫理
兼任	教授	熊谷 晶子 (68) <平成28年4月> 博士(農学)
		自然科学概論 看護教育のための生物基礎 栄養学
兼任	教授	赤羽 卓朗 (68) <平成28年4月> 修士(教育学)
		社会福祉概論
兼任	教授	井元 紀子 (43) <平成28年4月> 博士(農学)
		微生物学
兼任	准教授	渡邊 陵由 (37) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		健康医療総論 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	准教授	金地 美知彦 (42) <平成28年4月> 修士(文学)
		心の科学 健康医療総論
兼任	講師	小柳 達也 (35) <平成28年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論 健康医療総論
兼任	助教	工藤 祐太郎 (29) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	助教	綿谷 貴志 (30) <平成28年4月> 修士(教育学)
		スポーツの科学
兼任	助教	嶋崎 綾乃 (28) <平成28年4月> 修士(体育学)
		スポーツの科学
兼任	教授	村本 卓 (55) <平成28年4月> 学士(工学)
		情報処理基礎
兼任	教授	B. グロスマン (50) <平成28年4月> 修士(言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション
兼任	教授	樺 克裕 (50) <平成28年4月> 博士(経済学)
		政治学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 守人 (58) <平成28年4月> 博士(医学)
		健康医療総論 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 病理学Ⅲ 病理学Ⅳ 保健統計学Ⅱ
兼任	教授	小澤 昭夫 (66) <平成28年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション
兼任	教授	小林 喜輝 (70) <平成28年4月> 学士(教育学)
		日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	教授	瀬澤 透 (47) <平成28年4月> 博士(医学)
		人間発達学
兼任	教授	木鐘 耕一郎 (47) <平成28年4月>
		宗教学 キリスト教概論 哲学 生命と倫理
兼任	教授	熊谷 晶子 (70) <平成28年4月> 博士(農学)
		自然科学概論 看護教育のための生物基礎 栄養学
兼任	教授	赤羽 卓朗 (68) <平成28年4月> 修士(教育学)
		社会福祉概論
兼任	教授	井元 紀子 (44) <平成28年4月> 博士(農学)
		微生物学
兼任	准教授	渡邊 陵由 (39) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		健康医療総論 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	准教授	金地 美知彦 (43) <平成28年4月> 修士(文学)
		心の科学 健康医療総論
兼任	講師	小柳 達也 (34) <平成28年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論 健康医療総論
兼任	助教	工藤 祐太郎 (30) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	助教	綿谷 貴志 (31) <平成28年4月> 修士(教育学)
		スポーツの科学
兼任	助教	嶋崎 綾乃 (29) <平成28年4月> 修士(体育学)
		スポーツの科学
兼任	教授	村本 卓 (56) <平成28年4月> 学士(工学)
		情報処理基礎
兼任	教授	B. グロスマン (51) <平成28年4月> 修士(言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション
兼任	教授	樺 克裕 (51) <平成28年4月> 博士(経済学)
		政治学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 守人 (59) <平成28年4月> 博士(医学)
		健康医療総論 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 病理学Ⅲ 病理学Ⅳ 保健統計学Ⅱ
兼任	教授	小澤 昭夫 (67) <平成28年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション
兼任	教授	小林 喜輝 (71) <平成28年4月> 学士(教育学)
		日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	教授	瀬澤 透 (51) <平成28年4月> 博士(医学)
		人間発達学
兼任	教授	木鐘 耕一郎 (48) <平成28年4月>
		宗教学 キリスト教概論 哲学 生命と倫理
兼任	教授	熊谷 晶子 (71) <平成28年4月> 博士(農学)
		自然科学概論 看護教育のための生物基礎 栄養学
兼任	教授	赤羽 卓朗 (68) <平成28年4月> 修士(教育学)
		社会福祉概論
兼任	教授	井元 紀子 (45) <平成28年4月> 博士(農学)
		微生物学
兼任	准教授	渡邊 陵由 (40) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		健康医療総論 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	准教授	金地 美知彦 (44) <平成28年4月> 修士(文学)
		心の科学 健康医療総論
兼任	講師	小柳 達也 (36) <平成28年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論 健康医療総論
兼任	講師	工藤 祐太郎 (31) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	講師	綿谷 貴志 (32) <平成28年4月> 修士(教育学)
		スポーツの科学
兼任	助教	嶋崎 綾乃 (30) <平成28年4月> 修士(体育学)
		スポーツの科学
兼任	教授	村本 卓 (57) <平成28年4月> 学士(工学)
		情報処理基礎
兼任	教授	B. グロスマン (52) <平成28年4月> 修士(言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション
兼任	教授	樺 克裕 (58) <平成28年4月> 博士(経済学)
		政治学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 守人 (60) <平成28年4月> 博士(医学)
		健康医療総論 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 病理学Ⅲ 病理学Ⅳ 保健統計学Ⅱ
兼任	教授	小澤 昭夫 (68) <平成28年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション
兼任	教授	小林 喜輝 (72) <平成28年4月> 学士(教育学)
		日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	教授	瀬澤 透 (52) <平成28年4月> 博士(医学)
		人間発達学
兼任	教授	熊谷 晶子 (71) <平成28年4月> 博士(農学)
		自然科学概論 看護教育のための生物基礎 栄養学
兼任	教授	赤羽 卓朗 (68) <平成28年4月> 修士(教育学)
		社会福祉概論
兼任	教授	井元 紀子 (46) <平成28年4月> 博士(農学)
		微生物学
兼任	准教授	渡邊 陵由 (41) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		健康医療総論 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	准教授	金地 美知彦 (45) <平成28年4月> 修士(文学)
		心の科学 健康医療総論
兼任	講師	小柳 達也 (36) <平成28年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論 健康医療総論
専任	准教授	井川 剛弘 (48) <平成31年4月> 修士(法学)
		宗教学 キリスト教概論 哲学 生命と倫理 歴史学
兼任	講師	工藤 祐太郎 (32) <平成28年4月> 修士(体育科学)
		スポーツの科学
兼任	講師	綿谷 貴志 (33) <平成28年4月> 修士(教育学)
		スポーツの科学
兼任	助教	佐賀 綾乃 (31) <平成28年4月> 修士(体育学)
		スポーツの科学
兼任	教授	村本 卓 (58) <平成28年4月> 学士(工学)
		情報処理基礎
兼任	教授	B. グロスマン (53) <平成28年4月> 修士(言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション
兼任	教授	樺 克裕 (59) <平成28年4月> 博士(経済学)
		政治学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	坂本 貴博 (53) ＜平成28年4月＞ 学士（商学） 情報処理基礎
兼任	准教授	齊藤 統美 (42) ＜平成28年4月＞ 博士（文学） 社会学 国際関係論
兼任	准教授	田村 正文 (39) ＜平成28年4月＞ 博士（情報科学） 数学 保健統計学Ⅰ
兼任	講師	G. アンソニー (43) ＜平成28年4月＞ 修士（応用言語学） 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語（TOEIC）Ⅰ 英語（TOEIC）Ⅱ 海外事情
兼任	講師	柴垣 博孝 (62) ＜平成28年4月＞ 学士（文学） 日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	講師	戸村 春樹 (68) ＜平成28年4月＞ 修士（芸術学） 芸術論 デザイン論
兼任	講師	石岡 れい子 (68) ＜平成28年4月＞ 修士（教育学） 行動の科学
兼任	講師	佐々木 てる (48) ＜平成28年4月＞ 博士（社会学） 歴史学
兼任	講師	玉穂 義和 (77) ＜平成29年4月＞ 学士（薬学） 薬理学
兼任	講師	大西 基喜 (66) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 保健医療福祉行政論Ⅰ
兼任	講師	末廣 敏昭 (70) ＜平成30年4月＞ 修士（法学） 保健医療福祉行政論Ⅱ
兼任	講師	今 明秀 (57) ＜平成31年10月＞ 博士（医学） 救急看護
兼任	講師	藤野 智子 (45) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 災害看護
兼任	講師	田中 完 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 小児看護援助論
兼任	講師	上村 みさを (65) ＜平成28年4月＞ 専門学校 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	村中 成子 (64) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	花田 聡子 (62) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 統合看護実習
兼任	講師	松本 和子 (69) ＜平成30年10月＞ 専門学校 母性看護学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	坂本 貴博 (53) ＜平成28年4月＞ 学士（商学） 情報処理基礎
兼任	准教授	齊藤 統美 (42) ＜平成28年4月＞ 博士（文学） 社会学 国際関係論
兼任	准教授	田村 正文 (40) ＜平成28年4月＞ 博士（情報科学） 数学 保健統計学Ⅰ
兼任	准教授	G. アンソニー (43) ＜平成28年4月＞ 修士（応用言語学） 英語Ⅱ 英語（TOEIC）Ⅰ 英語（TOEIC）Ⅱ 海外事情
兼任	准教授	柴垣 博孝 (62) ＜平成28年4月＞ 学士（文学） 日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	准教授	高瀬 剛行 (64) ＜平成28年4月＞ 修士（法学） 日本国憲法
兼任	講師	佐賀 巧 (33) ＜平成28年10月＞ 修士（美術学） 芸術論 デザイン論
兼任	講師	石岡 れい子 (61) ＜平成28年4月＞ 修士（教育学） 行動の科学
兼任	講師	佐々木 てる (48) ＜平成28年4月＞ 博士（社会学） 歴史学
兼任	講師	玉穂 義和 (77) ＜平成29年4月＞ 学士（薬学） 薬理学
兼任	講師	大西 基喜 (66) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 保健医療福祉行政論Ⅰ
兼任	講師	末廣 敏昭 (70) ＜平成30年4月＞ 修士（法学） 保健医療福祉行政論Ⅱ
兼任	講師	今 明秀 (57) ＜平成31年10月＞ 博士（医学） 救急看護
兼任	講師	藤野 智子 (45) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 災害看護
兼任	講師	田中 完 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 小児看護援助論
兼任	講師	上村 みさを (66) ＜平成28年4月＞ 専門学校 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	村中 成子 (65) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	花田 聡子 (63) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 統合看護実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	坂本 貴博 (54) ＜平成28年4月＞ 学士（商学） 情報処理基礎
兼任	准教授	齊藤 統美 (43) ＜平成28年4月＞ 博士（文学） 社会学 国際関係論
兼任	准教授	田村 正文 (41) ＜平成28年4月＞ 博士（情報科学） 数学 保健統計学Ⅰ
兼任	准教授	G. アンソニー (44) ＜平成28年4月＞ 修士（応用言語学） 英語Ⅱ 英語（TOEIC）Ⅰ 英語（TOEIC）Ⅱ 海外事情
兼任	准教授	柴垣 博孝 (63) ＜平成28年4月＞ 学士（文学） 日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	准教授	高瀬 剛行 (67) ＜平成28年4月＞ 修士（法学） 日本国憲法
兼任	講師	佐賀 巧 (34) ＜平成28年10月＞ 修士（美術学） 芸術論 デザイン論
兼任	講師	石岡 れい子 (62) ＜平成28年4月＞ 修士（教育学） 行動の科学
兼任	講師	佐々木 てる (48) ＜平成28年4月＞ 博士（社会学） 歴史学
兼任	講師	玉穂 義和 (78) ＜平成28年4月＞ 学士（薬学） 薬理学
兼任	講師	大西 基喜 (67) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 保健医療福祉行政論Ⅰ
兼任	講師	末廣 敏昭 (71) ＜平成30年4月＞ 修士（法学） 保健医療福祉行政論Ⅱ
兼任	講師	今 明秀 (58) ＜平成31年10月＞ 博士（医学） 救急看護
兼任	講師	藤野 智子 (46) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 災害看護
兼任	講師	田中 完 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 小児看護援助論
兼任	講師	上村 みさを (67) ＜平成28年4月＞ 専門学校 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	村中 成子 (66) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	花田 聡子 (63) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 統合看護実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	坂本 貴博 (55) ＜平成28年4月＞ 学士（商学） 情報処理基礎
兼任	准教授	齊藤 統美 (43) ＜平成28年4月＞ 博士（文学） 社会学 国際関係論
兼任	准教授	田村 正文 (42) ＜平成28年4月＞ 博士（情報科学） 数学 保健統計学Ⅰ
兼任	准教授	G. アンソニー (45) ＜平成28年4月＞ 修士（応用言語学） 英語Ⅱ 英語（TOEIC）Ⅰ 英語（TOEIC）Ⅱ 海外事情
兼任	准教授	柴垣 博孝 (64) ＜平成28年4月＞ 学士（文学） 日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	准教授	高瀬 剛行 (68) ＜平成28年4月＞ 修士（法学） 日本国憲法
兼任	講師	松井 実明 (45) ＜平成30年4月＞ 修士（経済学） 経済学
兼任	講師	佐賀 巧 (35) ＜平成28年10月＞ 修士（美術学） 芸術論 デザイン論
兼任	講師	石岡 れい子 (63) ＜平成28年4月＞ 修士（教育学） 行動の科学
兼任	講師	佐々木 てる (50) ＜平成28年4月＞ 博士（社会学） 歴史学
兼任	講師	大西 基喜 (68) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 保健医療福祉行政論Ⅰ
兼任	講師	末廣 敏昭 (72) ＜平成30年4月＞ 修士（法学） 保健医療福祉行政論Ⅱ
兼任	講師	今 明秀 (59) ＜平成31年10月＞ 博士（医学） 救急看護
兼任	講師	藤野 智子 (47) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 災害看護
兼任	講師	田中 完 (59) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 小児看護援助論
兼任	講師	上村 みさを (68) ＜平成28年4月＞ 専門学校 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習
兼任	講師	村中 成子 (66) ＜平成30年10月＞ 専門学校 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	坂本 貴博 (56) ＜平成28年4月＞ 学士（商学） 情報処理基礎
兼任	准教授	齊藤 統美 (45) ＜平成28年4月＞ 博士（文学） 社会学 国際関係論
兼任	准教授	田村 正文 (43) ＜平成28年4月＞ 博士（情報科学） 数学 保健統計学Ⅰ
兼任	准教授	G. アンソニー (46) ＜平成28年4月＞ 修士（応用言語学） 英語Ⅱ 英語（TOEIC）Ⅰ 英語（TOEIC）Ⅱ 海外事情
兼任	准教授	柴垣 博孝 (65) ＜平成28年4月＞ 学士（文学） 日本語リテラシー 日本語表現リテラシー
兼任	准教授	高瀬 剛行 (69) ＜平成28年4月＞ 修士（法学） 日本国憲法
兼任	講師	松井 実明 (46) ＜平成30年4月＞ 修士（経済学） 経済学
兼任	講師	佐賀 巧 (36) ＜平成28年10月＞ 修士（美術学） 芸術論 デザイン論
兼任	講師	石岡 れい子 (64) ＜平成28年4月＞ 修士（教育学） 行動の科学
兼任	講師	佐々木 てる (51) ＜平成28年4月＞ 博士（社会学） 歴史学
兼任	講師	大西 基喜 (69) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 保健医療福祉行政論Ⅰ
兼任	講師	末廣 敏昭 (73) ＜平成30年4月＞ 修士（法学） 保健医療福祉行政論Ⅱ
兼任	講師	今 明秀 (60) ＜平成31年10月＞ 博士（医学） 救急看護
兼任	講師	藤野 智子 (48) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 災害看護
兼任	講師	田中 完 (60) ＜平成28年4月＞ 博士（医学） 小児看護援助論
兼任	講師	上村 みさを (69) ＜平成28年4月＞ 専門学校 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	小出 毛寿子 (46) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	小出 毛寿子 (46) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	小出 毛寿子 (46) <平成29年10月> 専門学校	専任	助平	小出 毛寿子 (46) <平成29年10月> 学士(数理学)			
		基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ			基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ			基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ						
兼任	講師	玉懸 多恵子 (64) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	玉懸 多恵子 (64) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	玉懸 多恵子 (65) <平成29年10月> 専門学校						
		日常生活援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ			日常生活援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ			日常生活援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ						
兼任	講師	小笠原 陽子 (63) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	小笠原 陽子 (63) <平成29年10月> 専門学校	兼任	講師	小笠原 陽子 (64) <平成29年10月> 専門学校						
		回復促進援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ			回復促進援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ			回復促進援助論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ						
兼任	講師	杉山 幸一 (35) <平成29年10月> 修士(法学)							兼任	講師	坂谷 伸夫 (67) <平成28年10月> 学士(教育学)			
		日本国憲法									地域文化論			
									兼任	講師	今井 鑑 (32) <平成29年5月> 学士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	峯下 昌道 (55) <平成29年5月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	三宅 良彦 (69) <平成29年6月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	藤井 一晃 (54) <平成29年7月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	山内 康生 (49) <平成29年10月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	土井 三乙 (84) <平成29年9月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	小西 和朗 (67) <平成29年10月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	木村 百子 (58) <平成29年12月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	森澤 隆 (45) <平成29年12月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	吉田 洋一 (42) <平成29年10月> 学士(歯学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	田名部 茂 (48) <平成29年11月> 修士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	後藤 高志 (59) <平成30年1月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	村井 憲夫 (73) <平成30年4月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	山下 得志 (34) <平成30年4月> 専門士(医療)			
											災害看護学概論 川崎 仁人 (51) <平成30年4月> 博士(医学)			
									兼任	講師	奥瀬 千晃 (50) <平成30年4月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			
									兼任	講師	中坂 優子 (61) <平成30年4月> 専門学校			
											基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ			
									兼任	講師	山根 真吾 (65) <平成31年4月> 博士(医学)			
											病態学Ⅰ 病態学Ⅱ			

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度未結算の情報として記入してください。)

① 認可申請書又は提出届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

② 「認可申請又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全員を(兼任、兼教員を含む。)を黒字で記入してください。

③ ①と②で、**職員数又は職員数から算出した出する箇所は出する者の数として記入してください。**

④ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書様作作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。

⑤ 年齢は、**それ以外の年度の5月1日時点の年齢数**を記入してください。

⑥ 専任(専門職大学等は専任、実専、実(研)、実司)、兼任、兼任の順に記入してください。

⑦ 不登年次(平成29年度開設や平成29年度2学期)の場合は適宜欄無し、該当ください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・加賀谷紀子専任准教授、一身上の都合により就任辞退。
- ・姥名きえ専任講師、体調不良により就任辞退。
- ・熊谷晶子兼任教授、本務学科の都合で「看護教育のための生物基礎」から「看護教育のための科学基礎」へ担当科目を変更。
- ・高橋正知専任教授、教育体制を充実するため「看護教育のための科学基礎」から「看護教育のための生物基礎」へ担当科目を変更。H28年1月教員審査済。
- ・高橋正知専任教授ならびに壬生寿子専任准教授、「チーム医療論」をオムニバス形式となるため科目内容の変更。H28年1月教員審査済。
- ・三本木温兼担教授、H27年度退職に伴い、後任として綿谷貴志兼担助教を新規採用。
- ・井元紀子兼任准教授、本務学科で准教授から教授へ昇格。
- ・渡邊陵由兼任准教授、本務学科の都合で「スポーツの科学」の兼任担当教員数を変更のため科目担当なし。
- ・小柳達也兼任講師、本務学科の都合で「健康医療論」の兼任担当教員を変更。後任として赤羽卓朗兼任教授が担当。
- ・坂本貴博兼任准教授、本務学科で准教授から教授へ昇格。
- ・G. アンソニー兼任講師、本務学科で講師から准教授へ昇格。
- ・G. アンソニー兼任講師、「英語Ⅰ」の履修者が少ないため2クラス実施から1クラス実施へ変更のため科目担当なし。
- ・柴垣博孝兼任講師、本務学科で新規採用。
- ・戸村春樹兼任講師、逝去されたため後任として佐貫巧兼任講師へ変更。担当科目：芸術論、デザイン論。
- ・杉山幸一兼任講師、後任として高須則行兼任准教授を本務学科で新規採用。

【平成29年度】

- ・蛭田由美専任教授、担当科目の追加。H29年10月変更届提出予定。
- ・壬生寿子専任准教授、担当科目の追加。H29年10月変更届提出予定。
- ・加賀谷紀子専任准教授の就任辞退に伴い、「後任未定」H29年10月から専任教員採用するため公募中。
- ・姥名きえ専任講師の就任辞退に伴い、その後任としてH29年6月長南幸恵専任助教就任。H29年11月教員審査済。
- ・平成29年10月西村美八専任准教授就任。H29年1月教員審査済。
- ・木鎌耕一郎兼任教授の担当予定科目である「地域文化論」を教育効果を考慮し、榎谷伸夫兼任講師へ変更。
- ・B. グロスマン兼任教授、「英語Ⅱ」の履修者が少ないため2クラス実施から1クラス実施へ変更のため科目担当なし。
- ・玉懸多恵子兼任講師、「日常生活援助論」ならびに「基礎看護学実習Ⅰ」は、H28年度入学生が69名のため科目担当なし。
- ・小笠原陽子兼任講師、「回復促進援助論」ならびに「基礎看護学実習Ⅰ」は、H28年度入学生が69名のため科目担当なし。
- ・今井悠兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅰ」ならびに「病態学Ⅲ」の担当教員を追加。
- ・峯下正道兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅰ」の担当教員として追加。
- ・三宅良彦兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅰ」の担当教員として追加。
- ・藤井一晃兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅲ」の担当教員として追加。
- ・山内崇生兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・土井三乙兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・小西和朗兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・木村百子兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・深澤隆兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・吉田洋一兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・田名郎茂兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。
- ・後藤高志兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅳ」の担当教員として追加。

【平成30年度】

- ・加賀谷紀子准教授の後任として、平成30年4月大崎瑞恵講師就任。H29年11月教員審査済。
- ・工藤祐太郎兼任助教、本務学科で助教から講師へ昇格。
- ・綿谷貴志兼担助教、本務学科で助教から講師へ昇格。
- ・玉懸義和兼任講師に代わり、村井繁夫兼任講師を担当教員として変更。
- ・山下将志兼任講師、教育効果を考慮し「災害看護活動論」の担当教員として追加。
- ・川畑仁人兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅱ」の担当教員として追加。
- ・奥瀬千晃兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅱ」の担当教員として追加。
- ・中坂愛子兼任講師、教育効果を考慮し「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員として追加。

【令和元年度】

- ・小沢久美子准教授、准教授から教授へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・山野内靖子講師、講師から准教授へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・木村緑講師、講師から准教授へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・坂本保子講師、講師から准教授へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・三浦広美助教、助教から講師へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・切明美保子助教、助教から講師へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・市川裕美子助教、助教から講師へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・坂本弘子助教、助教から講師へ職位の変更。平成30年11月教員審査済。
- ・久保宣子助手、助手から助教へ職位の変更。平成30年7月教員審査済。
- ・下川原久子講師退職に伴い、その後任として平成31年4月松岡智子助教就任。平成31年1月教員審査済。
- ・平成31年4月寺尾琴助教就任。平成31年1月教員審査済。
- ・平成31年4月小出のみ子非常勤講師を専任助手として採用。
- ・木鎌耕一郎兼任教授、他の教育機関へ異動のため、その後任として井昭弘兼任准教授を追加。
- ・赤羽卓朗兼任教授、短期大学部介護福祉学科へ異動のため、兼任教授へ変更。
- ・小柳達也講師、所属学科で准教授に昇格。
- ・佐貫綾乃助教、所属学科で講師に昇格。
- ・樺克裕教授、他の教育機関へ異動のため、その後任として松井克明講師を追加。
- ・柴垣博孝准教授、所属学科で教授に昇格。
- ・高須則行准教授、所属学科で教授に昇格。
- ・佐貫巧講師、所属学科で准教授に昇格。
- ・山谷眞吾兼任講師、教育効果を考慮し「病態学Ⅱ」の担当教員として追加。
- ・小池智彦兼任講師、教育効果を考慮し「薬理学」の担当教員として変更。
- ・川野恵子兼任講師、教育効果を考慮し「日常生活援助論」「回復促進援助論」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「統合看護論」「統合看護実習」の担当教員として追加。

- (注) ・変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) ー② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
9	3	6	6	24	10	5	5	5	25
(4)	(3)	(6)	(6)	(19)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
10	5	5	5	25	10	5	5	5	25
[1]	[2]	[Δ1]	[Δ1]	[1]	[1]	[2]	[Δ1]	[Δ1]	[1]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	7	7
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{24} = \boxed{104.16} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{7}{25} = \boxed{28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	准教授	加賀谷 紀子	H28. 3	必修	高齢者看護援助論	①	一身上の都合により就任辞退（28）						
				必修	高齢者看護学実習Ⅰ	①							
				必修	高齢者看護学実習Ⅱ	①							
				必修	看護卒業研究	①							
2	講師	蛭名 きえ	H28. 3	必修	精神看護援助論	①	体調不良により就任辞退（28）						
				必修	精神看護学実習	①							
				必修	統合看護実習	①							
				必修	基礎演習	①							
				必修	プレゼンテーション	③							
				必修	看護卒業研究	①							
合計（D）			後任補充状況の集計（E）										
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
合 計 （ F ）						後任補充状況の集計 （ G ）							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{24} = 8.33 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

今後も教員組織の充実を図っていく。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (27年8月)	1. リベラルアーツ科目の一部科目で配当単位数を2単位から1単位に修正したものがあるが、授業時間数や教育内容についても修正されているか明確ではない。そのため、必要に応じて授業時間数及び授業科目の内容の見直しを行い、単位数と授業時間数及び教育内容の関係の適正化を図ること。	留意事項 リベラルアーツ科目の1部科目で、配当単位数を2単位から1単位へ変更した科目の授業時間数は、全て30時間を確保している。授業科目の内容については、申請した授業科目の概要に準じて授業を行なっている。 (28)	履行済
	2. 教員の補充を必要とされた6授業科目については、開設時又は科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	留意事項 1科目はH28年1月にAC教員審査済。残り5科目については、科目開設時までに変更書を提出予定。 (28)	履行中 1科目について、平成30年度に変更書を提出し、現在審査中。(元) 5科目中4科目はH29年中に判定可となった。残り1科目については、変更書を申請中(30) 5科目中3科目はH29年10月に変更書を提出予定。残り2科目については、科目開設時までに変更書を提出予定。(29)
	3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 教員組織編制の将来構想について、中堅教員と若手教員の育成計画に基づく昇格人事及び新規教員の採用人事に関する計画を策定予定。(28)	履行中 H30年度に8名の教員が、AC教員審査で判定可を受けた。今後も人事計画を見直し、教員組織充実を図る。(元) 教員組織編制の将来構想について、中堅教員と若手教員の育成計画に基づく昇格人事ならびに新規教員の採用に関する人事計画を策定中である。(29)
	○若手教員に博士号を取得させるための支援については、近隣に博士課程を置いている大学がなく当該教員の負担が重くなるおそれがあることから、制度を運用する上では教員の負担に特に配慮することが望ましい。(その他の意見)	留意事項 博士号を取得していない専任教員が学位を取得を目指す際の支援体制を整備予定であり、当該教員に対して博士号取得にむけた中期的な研究計画書提出させ支援予定である。その際、当該教員が担当している科目負担への支援体制は、特に実習指導に関する負担が大きくなることが考えられ、看護学の専門教育を受けた有資格者で、医療機関等で3年以上の実務経験を有する実習助手を配置し対応する。(28)	履行中 H30年度は、博士号取得者がいなかったが、今後も博士号を取得できるよう、支援していく。(元) H29年度に1名の教員が博士号を取得した。今後も博士号を取得できるよう、支援していく。(30)

設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	○健康医療医学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	指摘事項 (改善)	教員組織編制の将来構想について、中堅教員と若手教員の育成計画に基づく昇格人事ならびに新規教員の採用に関する人事計画を策定中である。(29)	履行中	定年規程に定めている退職年齢を超える割合が比較的高いことから、教員公募をしている。(元) 完成年度前に、定年規程に定めている退職年齢を超える割合が比較的高いことから、教員採用の公募をしている。(30)
	○同一設置者が設置する既設学部等（八戸学院短期大学ライフデザイン学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	指摘事項 (改善)	八戸学院大学短期大学部（H29名称変更済）ライフデザイン学科について、H30年4月に学生募集を停止し、在学生がいなくなるのを待って、ライフデザイン学科を廃止する。(29)	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (30年2月)	○健康医療医学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	指摘事項 (改善)	完成年度前に、定年規程に定めている退職年齢を超える割合が比較的高いことから、教員採用の公募をしている。(30)	履行中	定年規程に定めている退職年齢を超える割合が比較的高いことから、教員公募をしている。(元)
設置計画履行状況 調査時 (31年4月)	「該当なし」				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康医療学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・教授会のもと「ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会が設置されている。
- ・FD委員会に関しては、別添の通り「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程」に規程している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・4月1日に法人主催のFD研修会を全教職員対象に実施した。（法人主催）
- ・4月1日に新任教員対象の研修会を実施した。

c 委員会の審議事項等

- ・教育活動改善のための方策に関すること
- ・学生による授業評価の実施および結果分析に関すること
- ・公開授業の実施、評価および結果分析に関すること
- ・FD活動報告書等の刊行に関すること
- ・その他FD活動に関すること

② 実施状況

a 実施内容

- ・法人SD研修会
- ・新任教員のための研修会
- ・新任教員向け授業支援システム研修会
- ・授業支援システム研修会（年数回予定）
- ・外部講師による研修会もしくはFDワークショップ（年1回予定）
- ・学生による授業評価アンケートの実施（年2回予定）
- ・教員相互の授業評価アンケートの実施（年2回予定）
- ・公開授業・授業参観の実施（年2回予定）
- ・FDハンドブック（FD報告書）の作成（年度終了後）

b 実施方法

- ・法人全教職員への研修会
辞令交付式終了後に実施した。
- ・新任教員のための研修会
本学のFD活動に理解・協力を得るために学内のFD活動についての説明を実施した。
- ・新任教員向け授業支援システム研修会
本学で採用している授業支援システムの活用方法を実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新任教員のための研修会
4月1日に開催された「新任教員研修会」新任教員名（大学、短期大学部）に、FD委員長より活動内容

についての説明を実施した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・今後の活動内容を有効活用するよう取り組む予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・今後の活動内容を有効活用するよう取り組む予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・例年、冊子で刊行し、図書館で閲覧できるように設置している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・別紙のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行しているが、外部への公表はHPで行なっている。
- ・大学ホームページ上に公開予定（平成30年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成36年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ —無— ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。